

春日市 男女共同参画に関する市民意識調査 【概要版】

春日市 2025年3月

【調査の目的】 春日市における男女平等に関する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画に関する施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施しました。

【調査の性格】 (1) 調査地域 春日市内全域
 (2) 調査対象者 満18歳以上の男女2,000人
 (3) 有効回収数 691 (うちWEB回答227) サンプル有効回収率34.5%
 (4) 調査期間 令和6年10月9日～11月8日

※数表、図表に示すNは、比率算出上の基数(回答者数)である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがあります。

※文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはなりません。

※数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示しています。

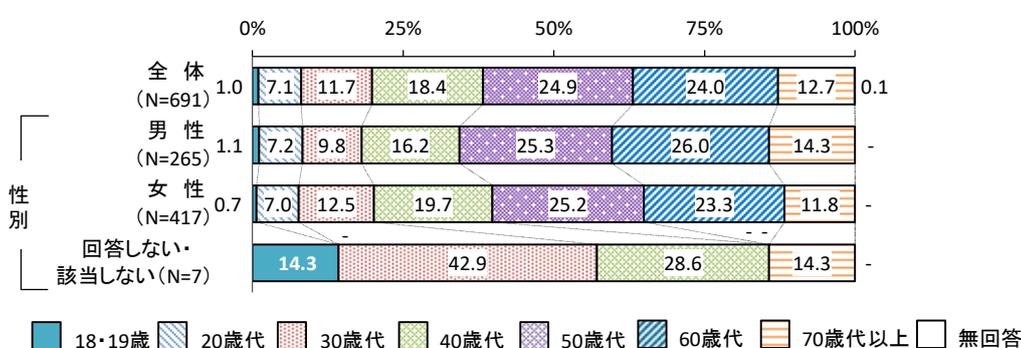
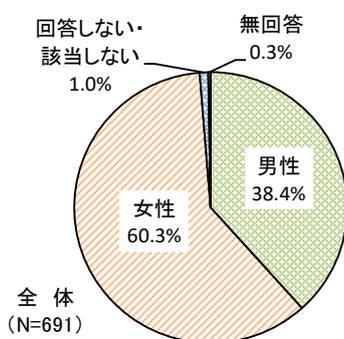
※今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っています。

春日市 「男女共同参画社会に関する市民意識調査」 令和元年8月実施

回答者の属性

●性別

●年齢



回答者の性別は「男性」が38.4%、「女性」が60.3%と女性の回答が約2割多く、年齢は、「50歳代」(24.9%)、「60歳代」(24.0%)、「40歳代」(18.4%)の順で多いです。

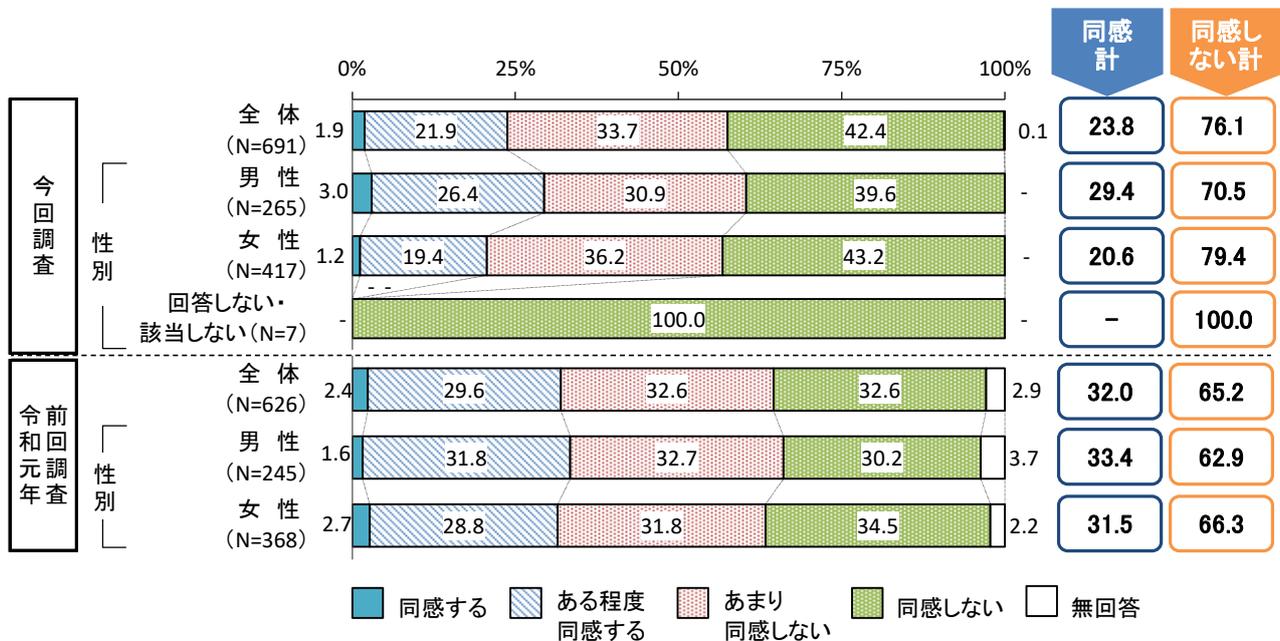
1 男女平等に関する意識について

● 固定的性別役割分担意識

問 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたは、この考え方にどの程度同感しますか。(〇は1つだけ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方、いわゆる固定的性別役割分担意識に対して男性の約7割、女性の約8割が『同感しない』(「同感しない」+「どちらかといえば同感しない」と回答しています。前回調査に比べ『同感しない』の割合は増加し、特に女性では約13ポイント増加しています。固定的・因習的な考え方にとらわれない人が多くなっています。

しかし、年齢別にみると30歳代では、男性は『同感しない』が9割を超えて最も高いのですが、女性は6割台と最も低く、『同感』(「同感する」+「ある程度同感する」)が3割台半ばと女性の中では高いなど、子育て世代において対照的な結果をみせています。

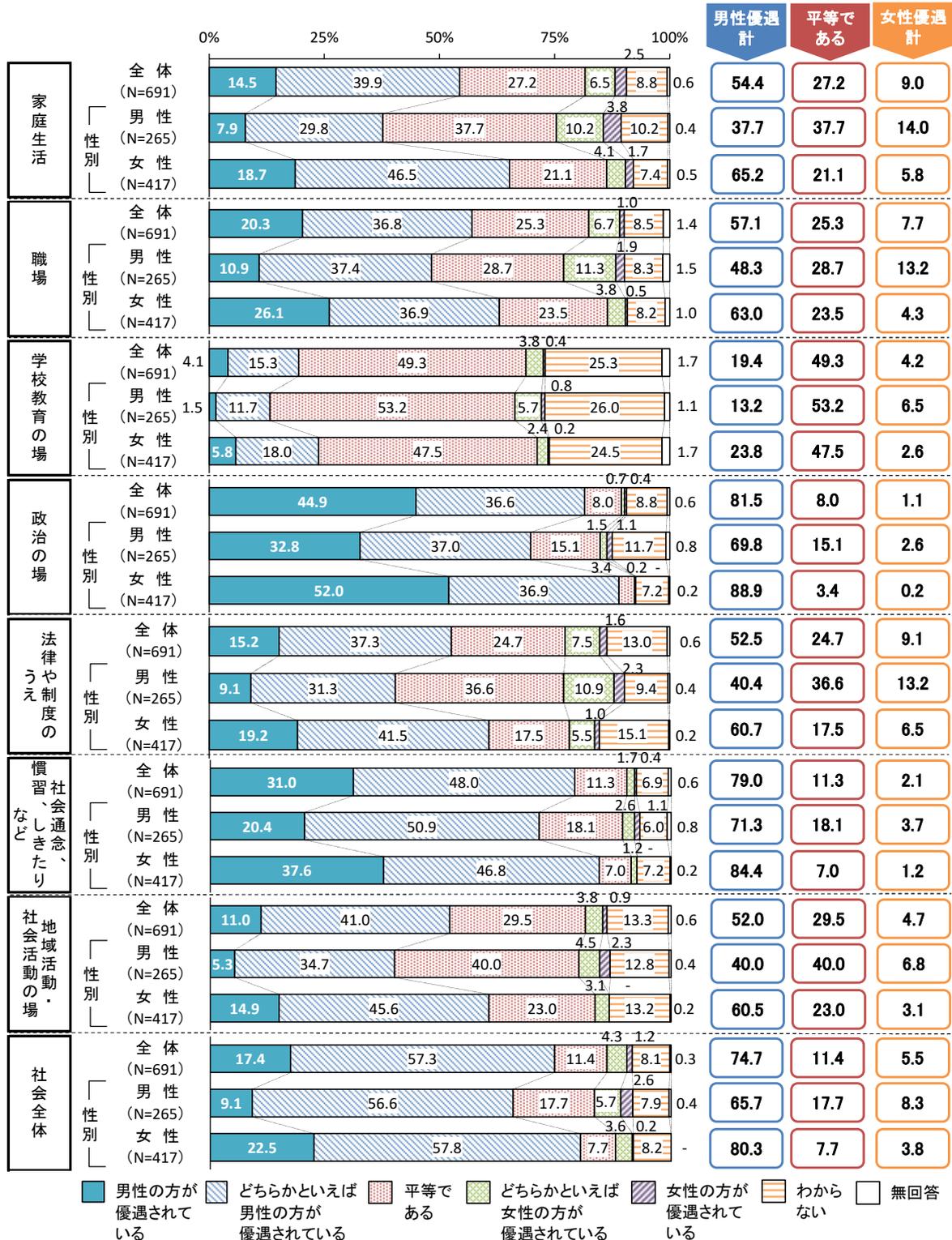


		標本数	同感する	ある程度同感する	あまり同意しない	同感しない	無回答	同意計	同感しない計
全体		691	1.9	21.9	33.7	42.4	0.1	23.8	76.1
年齢別	男性:10・20歳代	22	4.5	18.2	40.9	36.4	-	22.7	77.3
	男性:30歳代	26	-	3.8	34.6	61.5	-	3.8	96.1
	男性:40歳代	43	7.0	30.2	27.9	34.9	-	37.2	62.8
	男性:50歳代	67	1.5	32.8	29.9	35.8	-	34.3	65.7
	男性:60歳代	69	4.3	24.6	26.1	44.9	-	28.9	71.0
	男性:70歳代以上	38	-	34.2	36.8	28.9	-	34.2	65.7
	女性:10・20歳代	32	3.1	12.5	34.4	50.0	-	15.6	84.4
	女性:30歳代	52	5.8	30.8	34.6	28.8	-	36.6	63.4
	女性:40歳代	82	-	24.4	35.4	40.2	-	24.4	75.6
	女性:50歳代	105	1.0	18.1	37.1	43.8	-	19.1	80.9
	女性:60歳代	97	-	14.4	39.2	46.4	-	14.4	85.6
	女性:70歳代以上	49	-	16.3	32.7	51.0	-	16.3	83.7
	回答しない・該当しない	7	-	-	-	100.0	-	-	100.0
無回答	2	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0	

●男女の地位の平等感

問 次あげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つだけ)

「学校教育」では「平等である」が約5割ですが、他の分野では『男性優遇』が大きく上回っています。特に、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇』が約8割と高く、「社会全体」でも『男性優遇』が約7割、他の分野でも5割を超えています。また、すべての分野で女性は『男性優遇』の割合が男性よりも高く、性別で認識の違いがみられます。

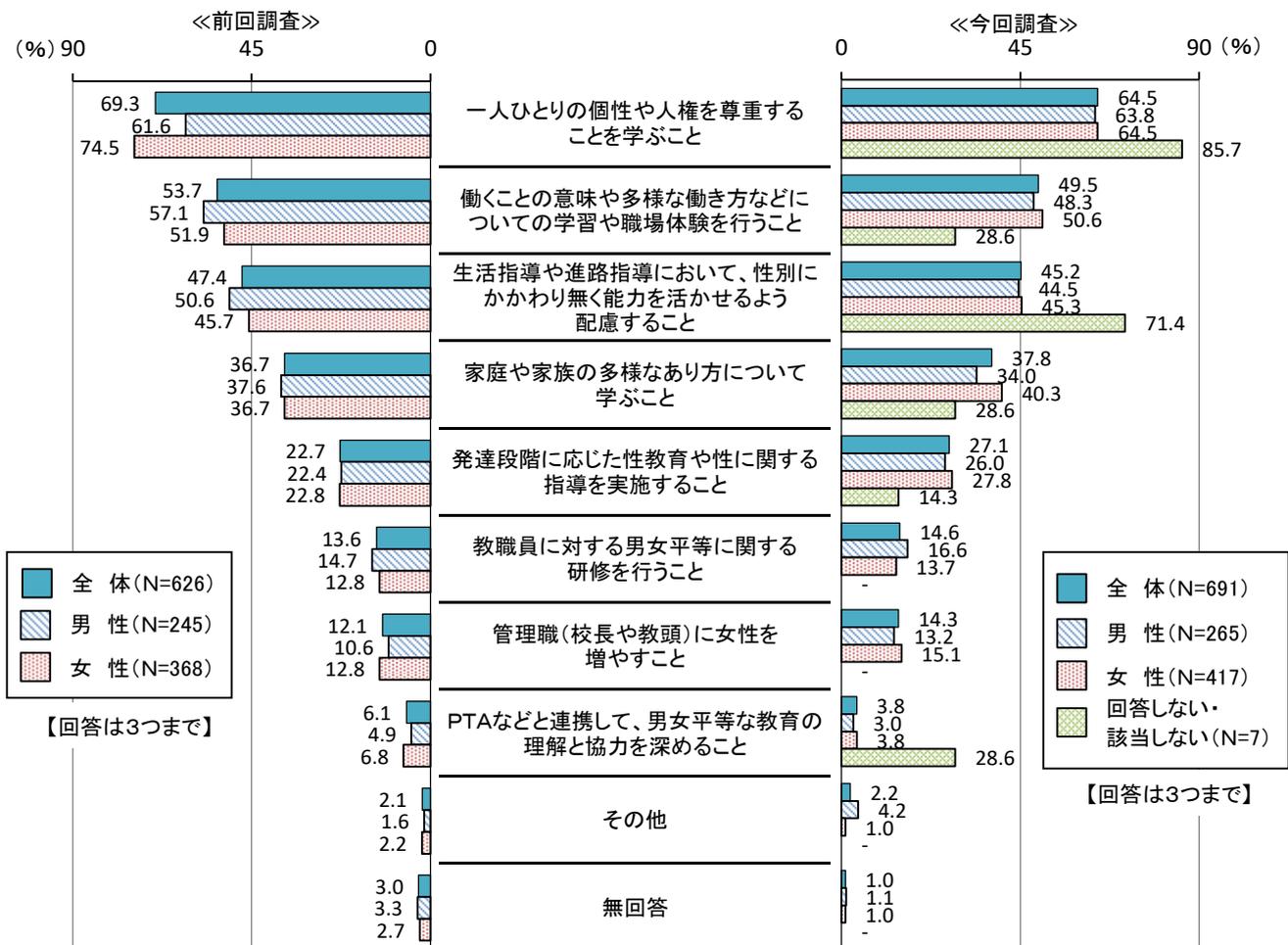


2 子どもの育て方・教育について

●学校教育の場で力を入れること

問 これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

学校教育で必要な取り組みとして、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」などがあげられています。



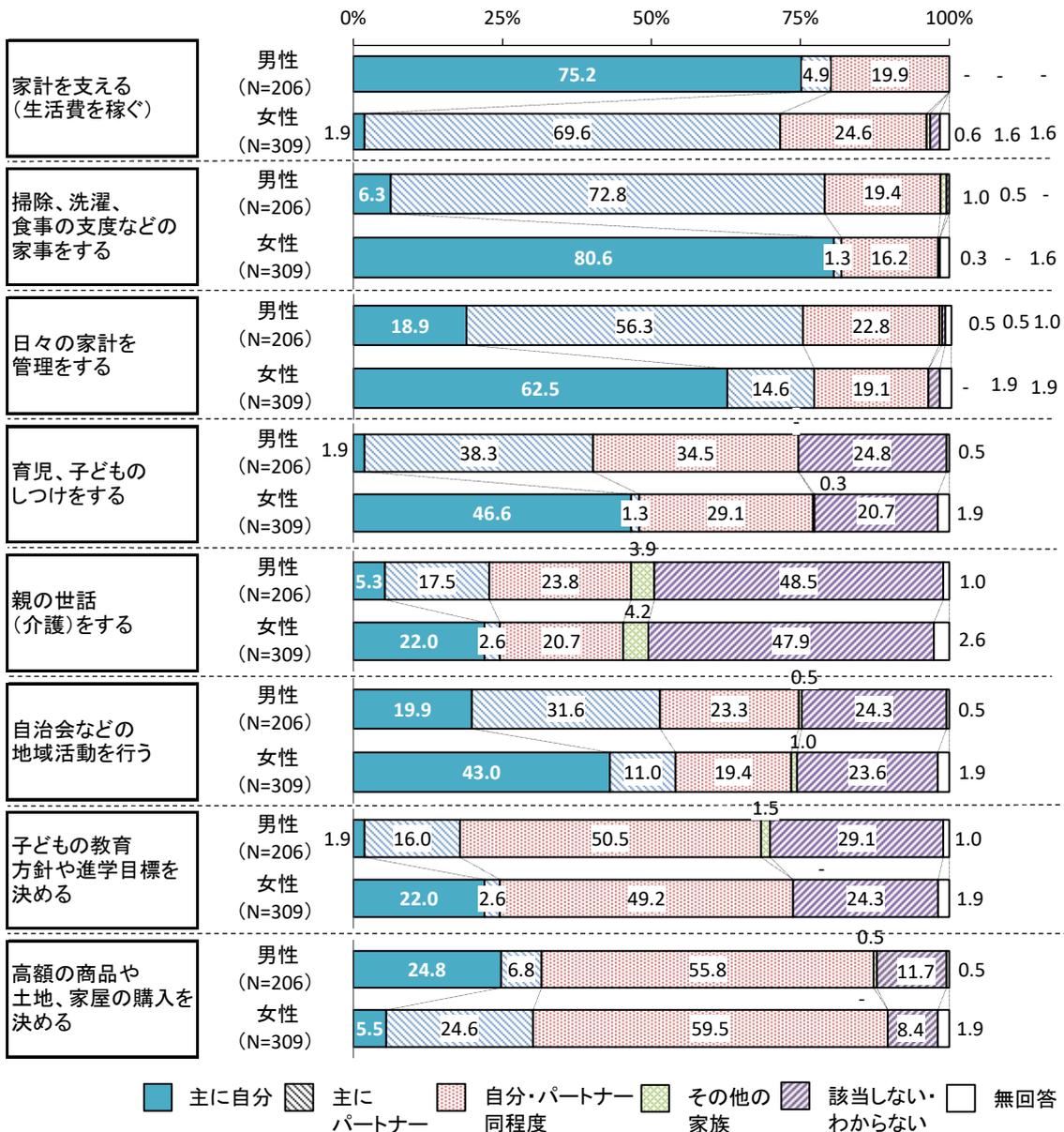
3 家庭生活について

● 家庭内での役割分担

【現在パートナー（配偶者や恋人）と同居している方におたずねします。】

問 あなたの家庭では、次のことを、主にどなたが行っていますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。（〇はそれぞれ1つだけ）

家庭内での役割分担について、「家計を支える(生活費を稼ぐ)」は約7割から7割台半ばの男性が担い、「炊事、洗濯、食事の支度などの家事をする」は約7割から8割の女性が担っています。前回調査と比較しても大きな違いはなく、依然として家計維持は夫中心、家事は妻中心という性別役割分担が残っていることがうかがえます。



4 職業や仕事について

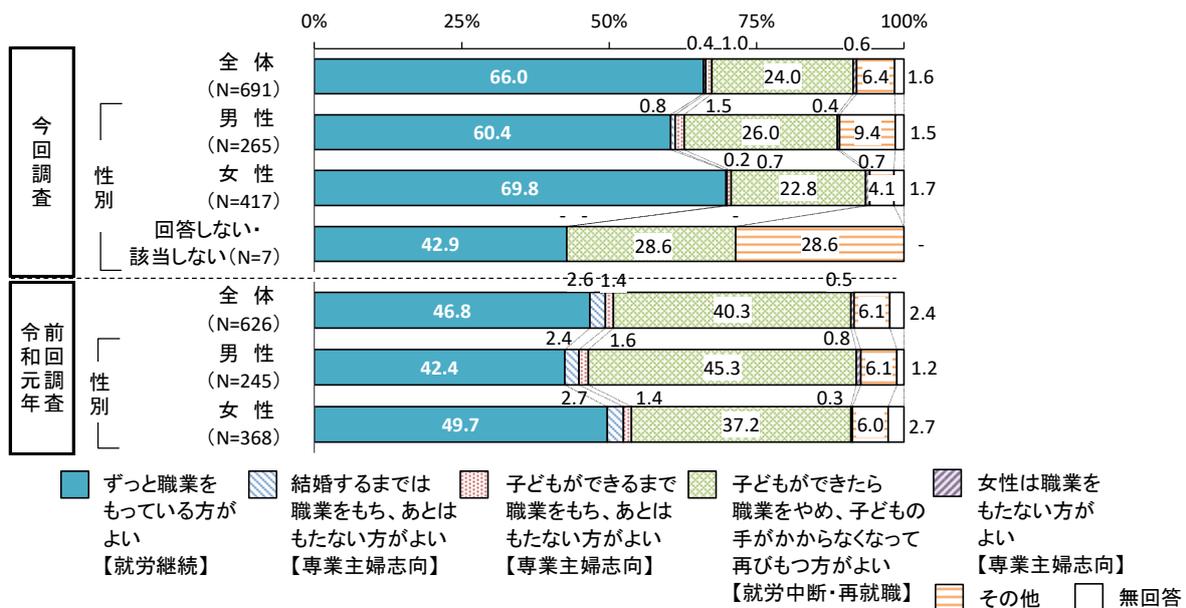
●女性が職業をもつことについての考え方

問 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。

(Qは1つだけ)

女性が職業をもつことについて、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続の支持が6割台半ばで最も高く、「子どもができたなら職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」という就労中断・再就職を支持する人は2割台半ばと、女性が職業をもつことが望ましいと考えている人が大半となっています。

前回調査と比べて、就労継続が約20ポイント増え、就労中断・再就職は男性では約20ポイント、女性では約15ポイント減少し、結婚や出産を経ても女性は就労を中断しない方がよいと考える人が男女ともに、この5年間で増加しています。しかし、就労中断・再就職への支持は、30歳代以下では女性の方が男性よりやや高く、子育て期の女性では、就労継続は難しいと考えられていることがうかがえます。



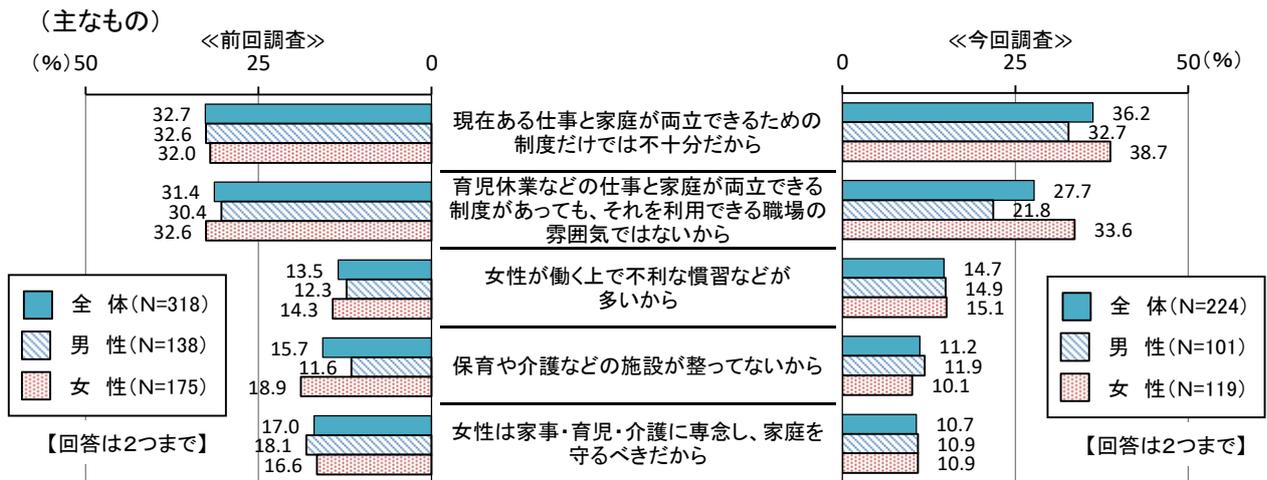
		標本数	ずっと職業をもっている方がよい	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができたなら職業をやめ、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい	女性が職業をもたない方がよい	その他	無回答
全体		691	456	3	7	166	4	44	11
年齢別	男性:10・20歳代	22	59.1	4.5	4.5	9.1	-	22.7	-
	男性:30歳代	26	69.2	-	-	15.4	-	15.4	-
	男性:40歳代	43	72.1	-	-	18.6	-	9.3	-
	男性:50歳代	67	56.7	1.5	1.5	28.4	1.5	10.4	-
	男性:60歳代	69	60.9	-	1.4	29.0	-	5.8	2.9
	男性:70歳代以上	38	47.4	-	2.6	42.1	-	2.6	5.3
	女性:10・20歳代	32	71.9	-	3.1	12.5	-	12.5	-
	女性:30歳代	52	69.2	-	1.9	25.0	-	3.8	-
	女性:40歳代	82	75.6	-	-	18.3	2.4	3.7	-
	女性:50歳代	105	62.9	1.0	-	28.6	-	6.7	1.0
	女性:60歳代	97	71.1	-	1.0	22.7	1.0	-	4.1
女性:70歳代以上	49	71.4	-	-	22.4	-	2.0	4.1	
回答しない・該当しない	7	42.9	-	-	28.6	-	28.6	-	
無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	-	

●女性の就労継続を支持しない理由

問 あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

女性の就労継続を支持しない理由として、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」という回答が最も高くなっています。次いで「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」は、女性では3割を超え男性よりも約12ポイント高くなっています。

就労継続を支持しない女性にとって、現状の両立制度だけでは女性の就労継続が難しい点や職場の雰囲気が課題であることがうかがえます。

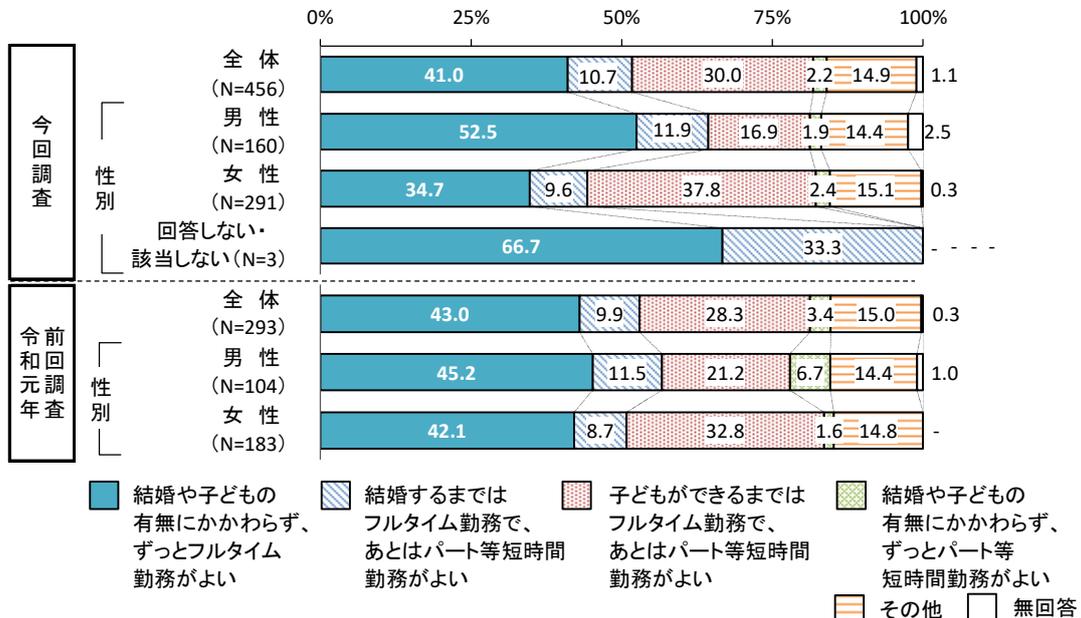


●女性が就労継続をする場合の働き方

問 ずっと職業をもっている場合、どのような働き方がよいと思いますか。

(〇は1つだけ)

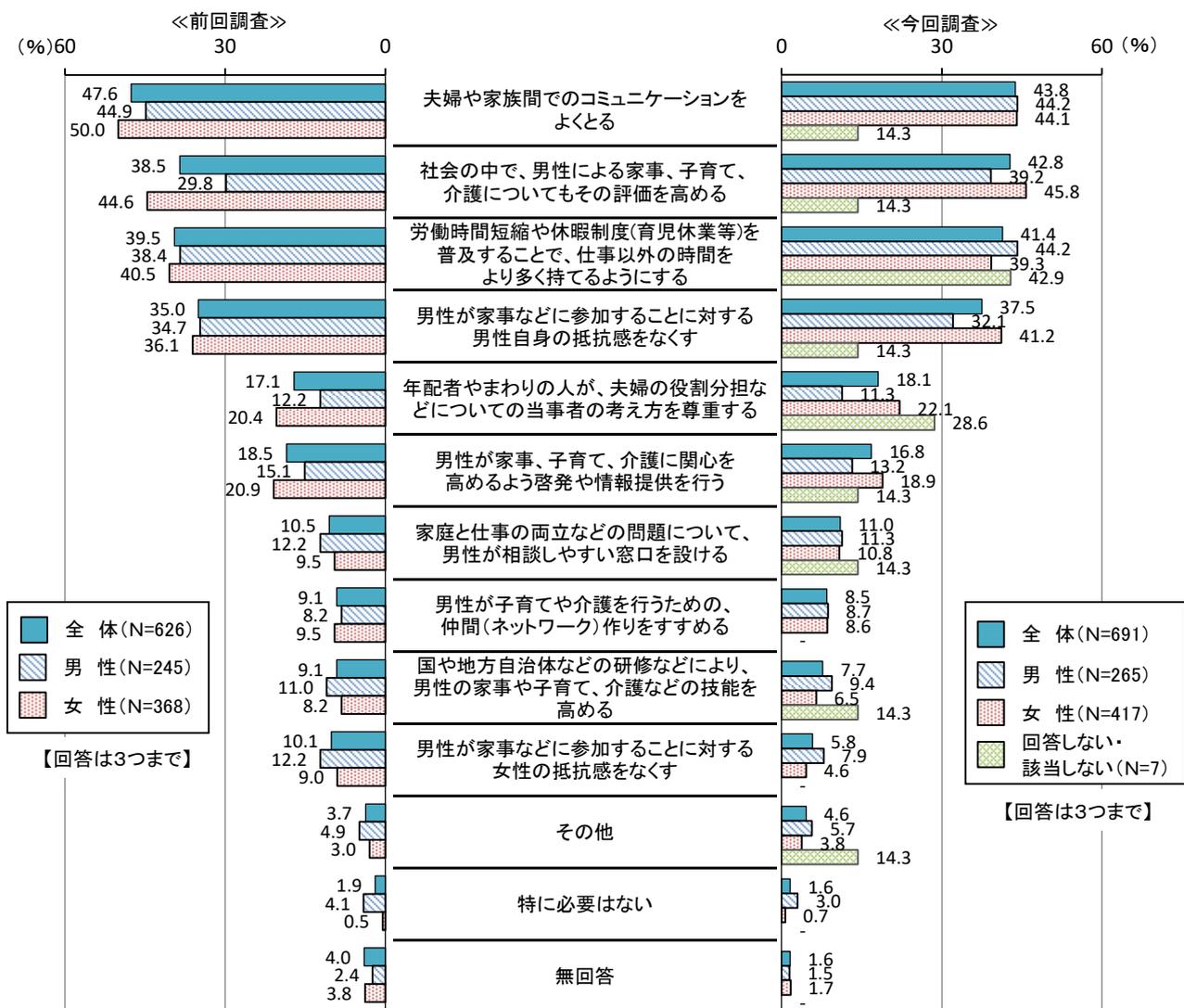
女性の就労継続を支持する人に、どのような働き方がよいかをたずねたところ、男性では「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」、女性では「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が最も高くなっています。この傾向は今回調査の方が前回調査よりも顕著になっています。



●男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が男女とも最も高いですが、女性では「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」など意識上の性別役割分担解消を求める項目で男性の割合を上回っています。男性では「労働時間短縮や休暇制度(育児休業等)を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が女性よりも高くなっています。



5 暴力などの人権侵害について

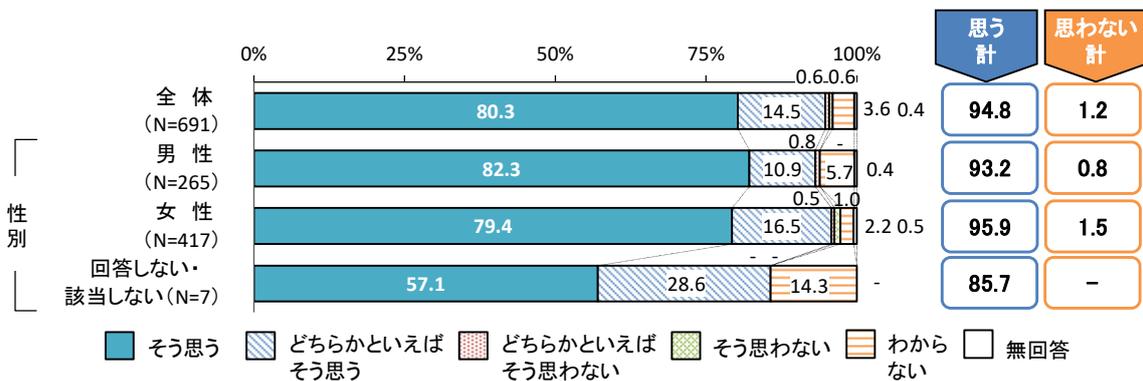
● 妊娠や性に関する考え方

問 次の考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
(〇はそれぞれ1つだけ)

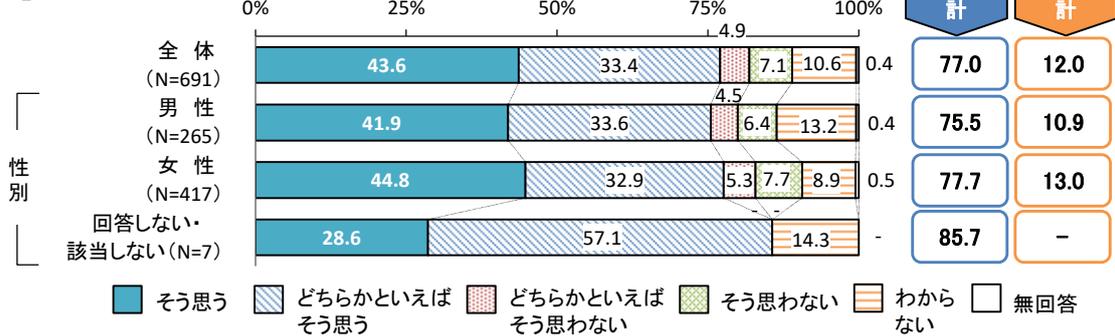
「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである」については、『思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が男女とも9割台半ばに対し、「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」については、7割台半ばです。

妊娠や出産の可能性は女性にしかなく、女性の性的自己決定権は、人権として尊重されなければなりません。男性の10・20歳代、30歳代では「わからない」が他の年齢より高く、若い世代に向けた「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖による健康/権利)」についての啓発の必要性が示唆されています。

「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである」



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」

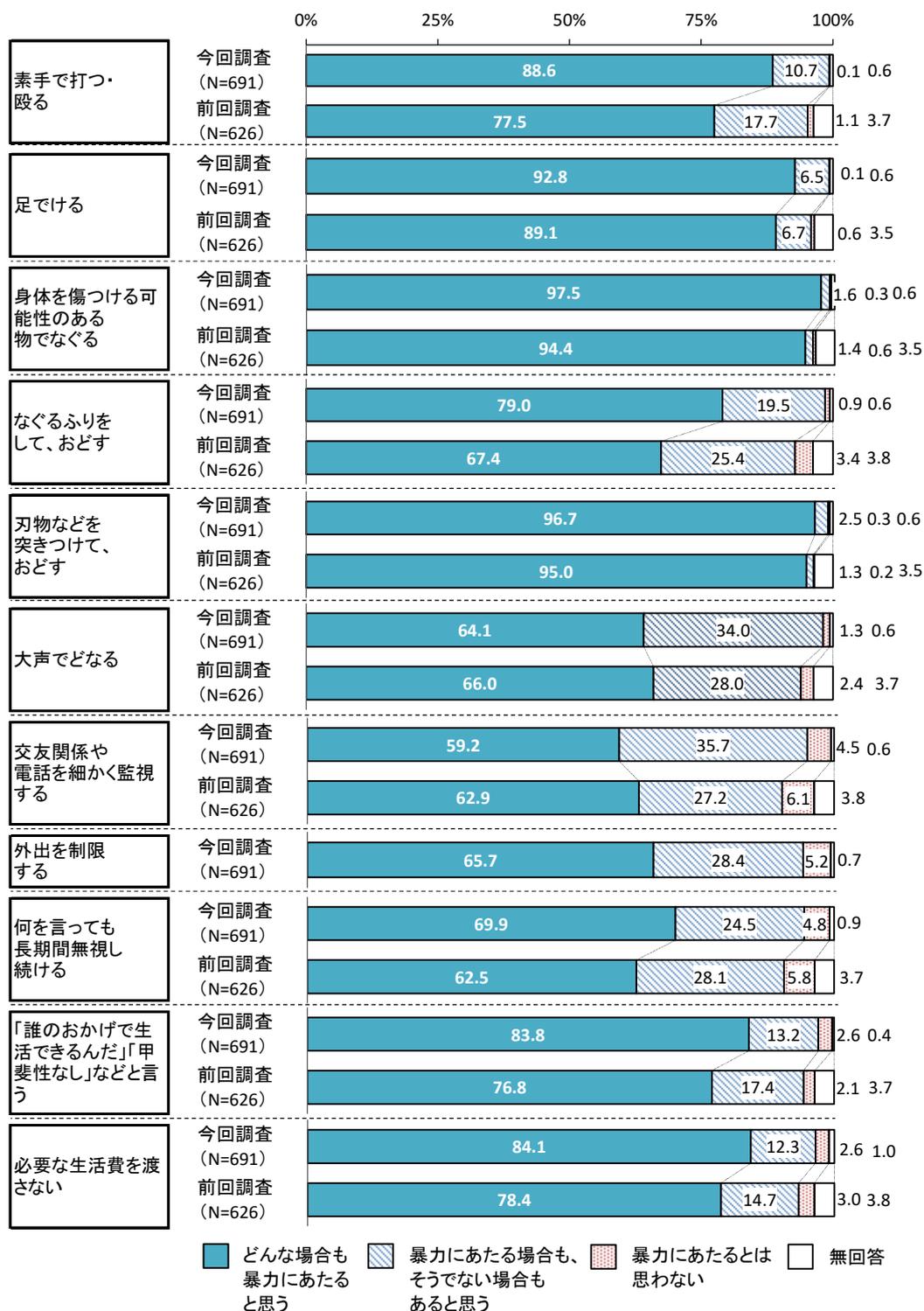


	標本数	妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである							妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである								
		そう思う	思いどえちらばらそかと	思いどえちらばらなそかと	いそわえちらばらな	わから	無回答	思う計	思わない計	そう思う	思いどえちらばらそかと	思いどえちらばらなそかと	いそわえちらばらな	わから	無回答	思う計	思わない計
全体	691	555	100	4	4	25	3	655	8	301	231	34	49	73	3	532	83
	100.0	80.3	14.5	0.6	0.6	3.6	0.4	94.8	1.2	43.6	33.4	7.1	10.6	4.9	0.4	77.0	12.0
男性:10・20歳代	22	86.4	4.5	-	-	9.1	-	90.9	-	36.4	40.9	-	4.5	18.2	-	77.3	4.5
男性:30歳代	26	96.2	-	-	-	3.8	-	96.2	-	34.6	34.6	7.7	3.8	19.2	-	69.2	11.5
男性:40歳代	43	79.1	14.0	-	-	7.0	-	93.1	-	41.9	37.2	4.7	4.7	11.6	-	79.1	9.4
男性:50歳代	67	82.1	14.9	-	-	3.0	-	97.0	-	46.3	31.3	7.5	6.0	9.0	-	77.6	13.5
男性:60歳代	69	82.6	10.1	1.4	-	5.8	-	92.7	1.4	44.9	29.0	2.9	11.6	11.6	-	73.9	14.5
男性:70歳代以上	38	73.7	13.2	2.6	-	7.9	2.6	86.9	2.6	36.8	36.8	2.6	2.6	18.4	2.6	73.6	5.2
女性:10・20歳代	32	75.0	9.4	3.1	-	12.5	-	84.4	3.1	50.0	28.1	3.1	6.3	12.5	-	78.1	9.4
女性:30歳代	52	88.5	7.7	-	1.9	-	1.9	96.2	1.9	57.7	21.2	5.8	5.8	7.7	1.9	78.9	11.6
女性:40歳代	82	81.7	17.1	-	1.2	-	-	98.8	1.2	43.9	36.6	4.9	8.5	6.1	-	80.5	13.4
女性:50歳代	105	74.3	22.9	-	1.0	1.9	-	97.2	1.0	44.8	33.3	4.8	8.6	8.6	-	78.1	13.4
女性:60歳代	97	78.4	18.6	-	-	2.1	1.0	97.0	-	39.2	35.1	8.2	5.2	11.3	1.0	74.3	13.4
女性:70歳代以上	49	81.6	12.2	2.0	2.0	2.0	-	93.8	4.0	40.8	36.7	2.0	12.2	8.2	-	77.5	14.2
回答しない・該当しない	7	57.1	28.6	-	-	14.3	-	85.7	-	28.6	57.1	-	-	14.3	-	85.7	-
無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	100.0	-

●暴力だと思ふもの

問 あなたは、次にあげるようなことが配偶者・パートナー・恋人間で行われた場合、それを暴力だと思ひますか。(〇はそれぞれ1つだけ)

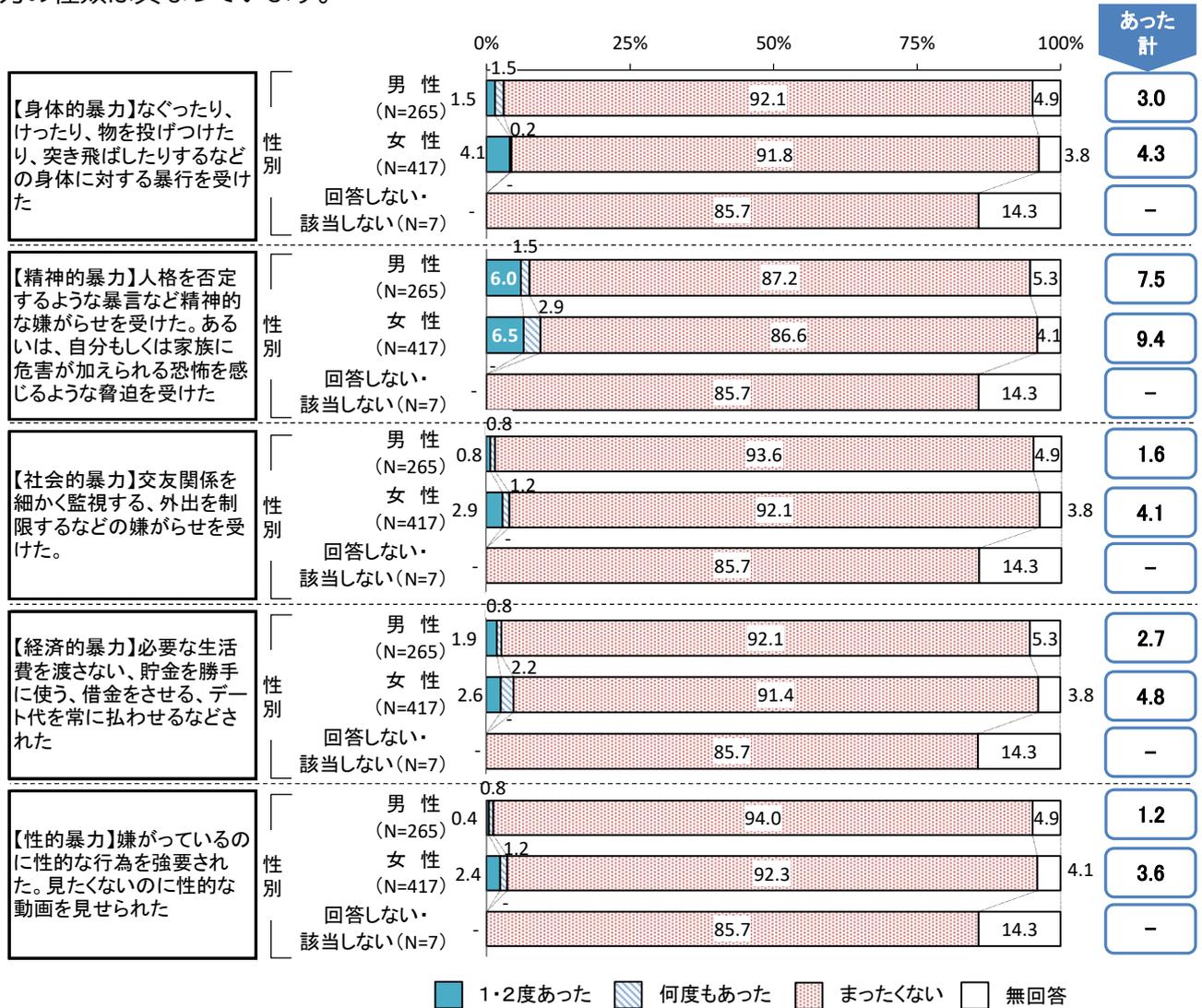
様々な暴力行為が配偶者や恋人の間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、身体的暴力や性的暴力、経済的暴力に該当する項目では比較的高くなっています。しかし、精神的暴力の「大声でどなる」、社会的暴力の「外出を制限する」は6割台半ばと低く課題といえます。



●暴力の被害経験

問 この3年間くらいのうちに、あなたは配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされたことがありますか。(〇はそれぞれ1つだけ)

実際の被害経験については、この3年間に女性の14.6%、男性の8.3%が何らかの暴力を受けています。年齢別でみると、身体的暴力は女性の70歳以上、精神的暴力は男性の30歳から50歳代で、経済的暴力は女性の50歳代以上で、性的暴力は女性の30歳代と40歳代でやや高く、性や年齢で暴力の種類は異なっています。



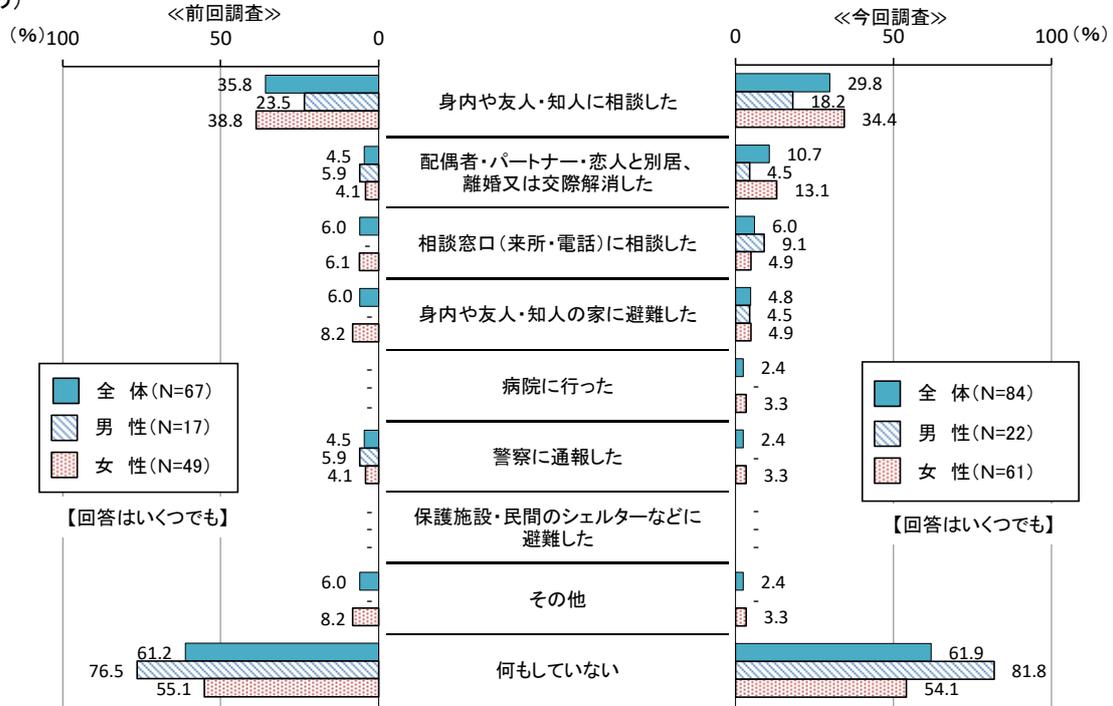
	標本数	【身体的暴力】					【精神的暴力】					【社会的暴力】					【経済的暴力】					【性的暴力】				
		あつた2度	あつた度も	なまいたく	無回答	あつた計	あつた2度	あつた度も	なまいたく	無回答	あつた計	あつた2度	あつた度も	なまいたく	無回答	あつた計	あつた2度	あつた度も	なまいたく	無回答	あつた計	あつた2度	あつた度も	なまいたく	無回答	あつた計
全体	691	21	6	634	30	27	43	17	599	32	60	14	7	640	30	21	17	11	632	31	28	11	8	641	31	19
女性:10・20歳代	22	-	-	86.4	13.6	-	-	-	86.4	13.6	-	-	-	90.9	9.1	-	-	-	90.9	9.1	-	-	-	-	90.9	9.1
女性:30歳代	26	-	-	92.3	3.8	3.8	15.4	-	80.8	3.8	15.4	-	-	96.2	3.8	-	3.8	-	92.3	3.8	3.8	-	-	92.3	3.8	
女性:40歳代	43	4.7	2.3	86.0	7.0	7.0	4.7	7.0	79.1	9.3	11.7	2.3	2.3	86.0	9.3	4.6	2.3	2.3	86.0	9.3	4.6	-	2.3	88.4	9.3	
女性:50歳代	67	1.5	1.5	94.0	3.0	3.0	10.4	-	86.6	3.0	10.4	1.5	1.5	94.0	3.0	3.0	4.5	1.5	89.6	4.5	6.0	-	1.5	95.5	3.0	
女性:60歳代	69	1.4	1.4	97.1	-	2.8	4.3	1.4	94.2	-	5.7	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	
女性:70歳代以上	38	-	-	89.5	10.5	-	-	-	89.5	10.5	-	-	-	89.5	10.5	-	-	-	89.5	10.5	-	-	-	89.5	10.5	
男性:10・20歳代	32	-	-	100.0	-	-	3.1	-	96.9	-	3.1	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
男性:30歳代	52	1.9	-	96.2	1.9	1.9	7.7	-	90.4	1.9	7.7	1.9	-	96.2	1.9	1.9	-	1.9	96.2	1.9	1.9	-	-	1.9	96.2	1.9
男性:40歳代	82	1.2	-	96.3	2.4	1.2	8.5	2.4	86.6	2.4	10.9	2.4	1.2	93.9	2.4	3.6	1.2	1.2	95.1	2.4	2.4	3.7	1.2	92.7	2.4	
男性:50歳代	105	3.8	-	93.3	2.9	3.8	5.7	4.8	86.7	2.9	10.5	1.9	1.9	93.3	2.9	3.8	3.8	3.8	89.5	2.9	7.6	3.8	1.9	91.4	2.9	
男性:60歳代	97	6.2	-	87.6	6.2	6.2	7.2	2.1	84.5	6.2	9.3	5.2	-	88.7	6.2	5.2	3.1	2.1	88.7	6.2	5.2	2.1	1.0	90.7	6.2	
男性:70歳代以上	49	10.2	2.0	79.6	8.2	12.2	4.1	6.1	79.6	10.2	10.2	4.1	4.1	83.7	8.2	8.2	6.1	2.0	83.7	8.2	8.1	2.0	-	87.8	10.2	
回答しない・該当しない	7	-	-	85.7	14.3	-	-	-	85.7	14.3	-	-	-	85.7	14.3	-	-	-	85.7	14.3	-	-	-	-	85.7	14.3
無回答	2	-	50.0	50.0	-	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	100.0	-	-	50.0	-	50.0	-	50.0	-	50.0	-	50.0	-

●暴力を受けた時の対応

問 そのような行為を受けて、その後どのように対応しましたか。(〇はいくつでも)

暴力被害を受けた人のうち、約6割は何もしていませんでした。

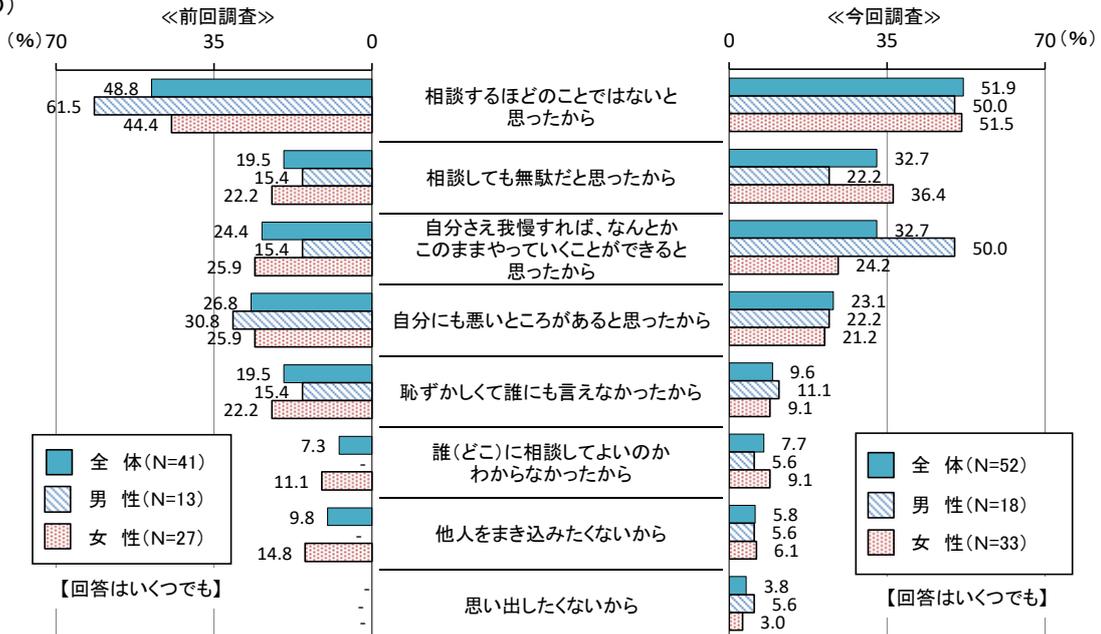
(主なもの)



問 あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

何もしていない理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が約半数を占め、男性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、女性では「相談してもむだだと思ったから」が高く、相談することをあきらめてしまっている女性が多い状況がうかがえます。

(主なもの)



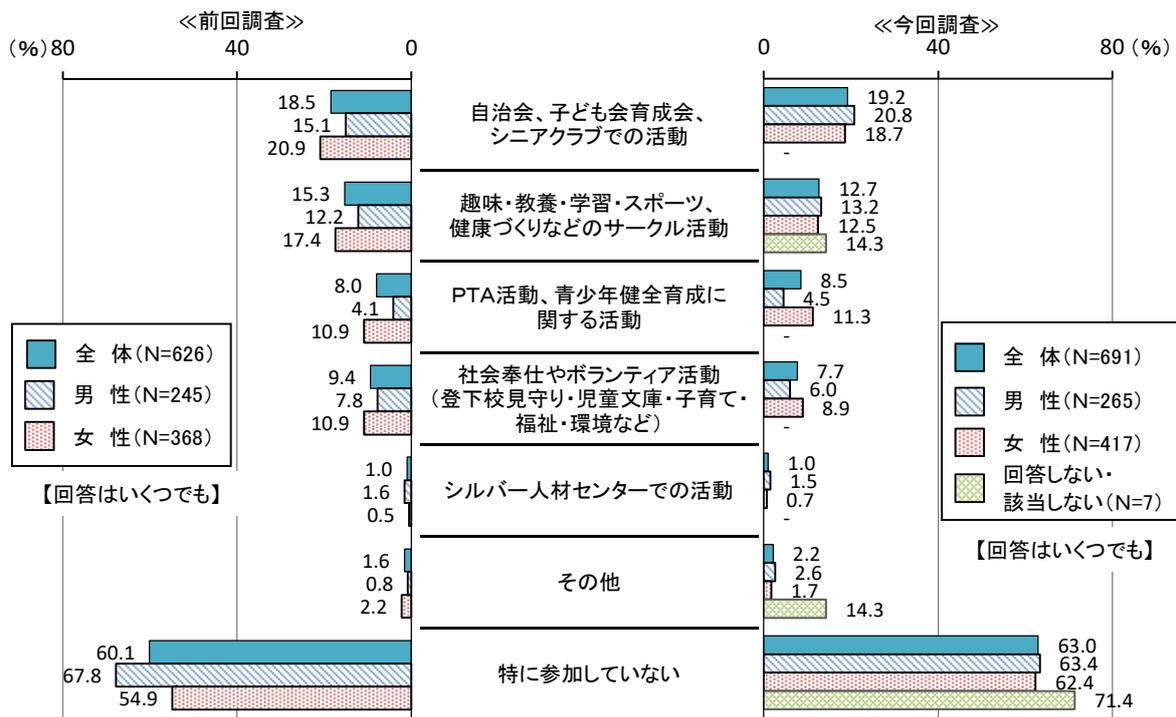
6 地域活動について

● 現在参加している地域活動

問 あなたは地域社会において、今どのような実践活動に参加していますか。

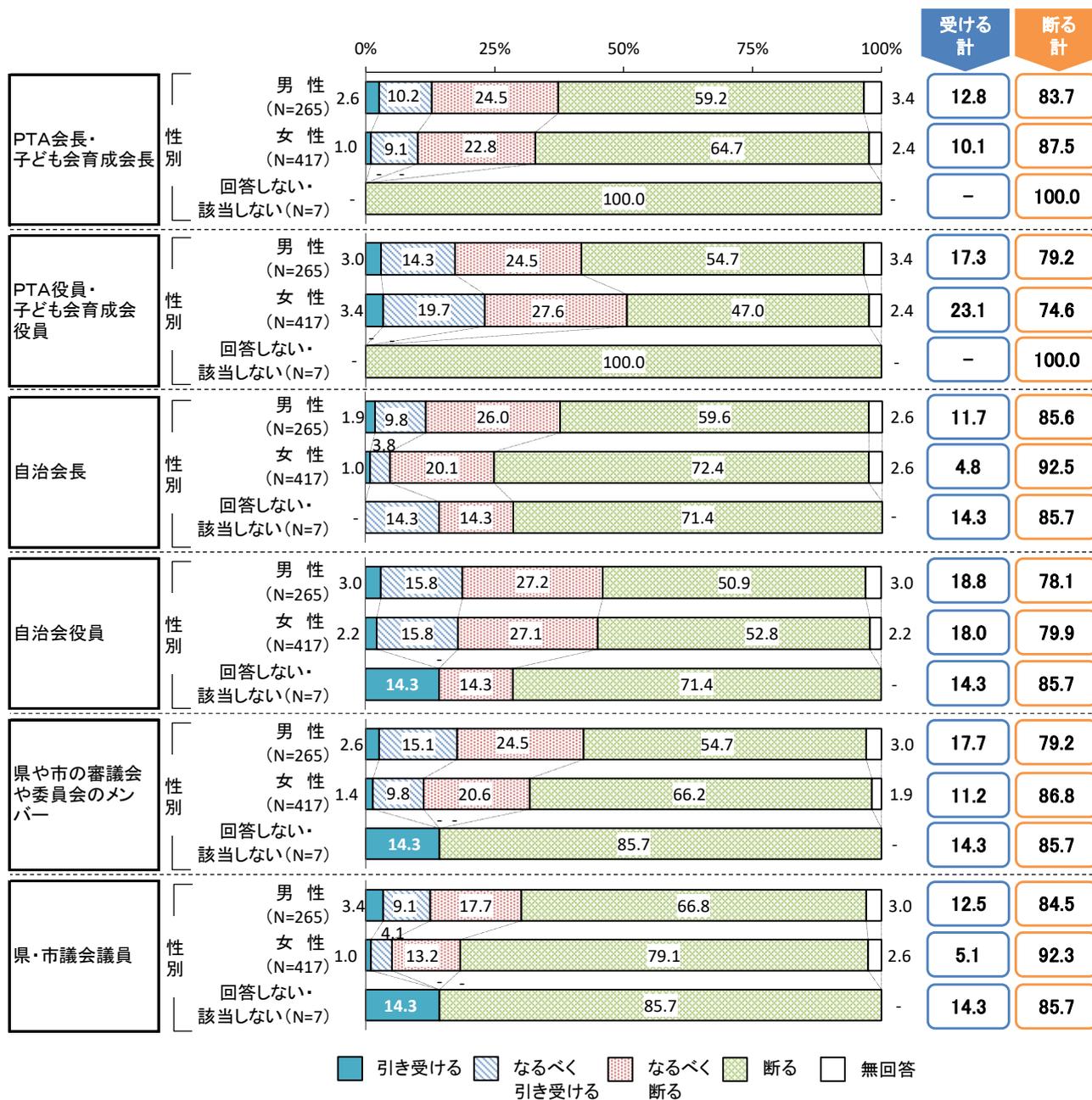
(〇はいくつでも)

現在参加している地域活動は、「自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動」や「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が比較的多くなっていますが、約6割の人は「特に参加していない」となっています。



● 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応

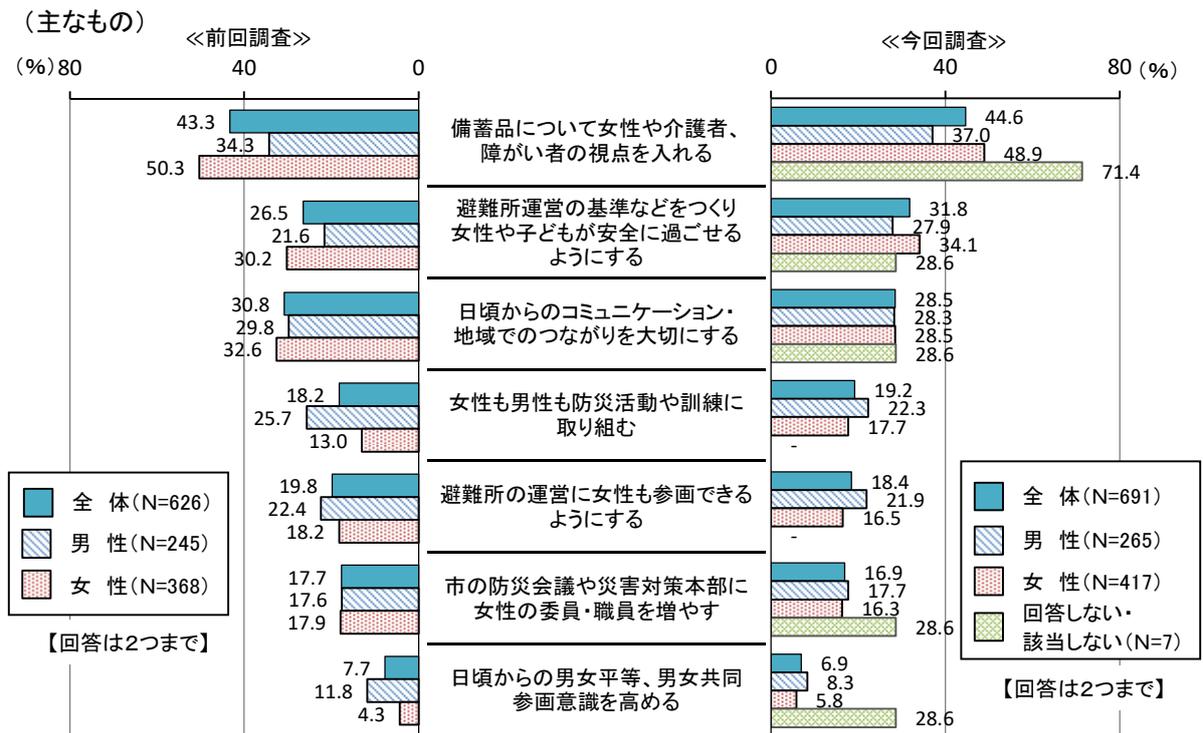
問 仮にあなたが、次のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。
(〇はそれぞれ1つだけ)



●防災に必要な男女共同参画の視点

問 九州でも多くの地震や豪雨などの自然災害が発生していますが、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

日ごろの防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされるために必要なことは、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」などがあげられています。災害が発生したときに性別に関わらず意思決定に関わることができるよう、平時からの男女共同参画の重要性について、特に決定の場の女性参画促進について啓発が必要です。

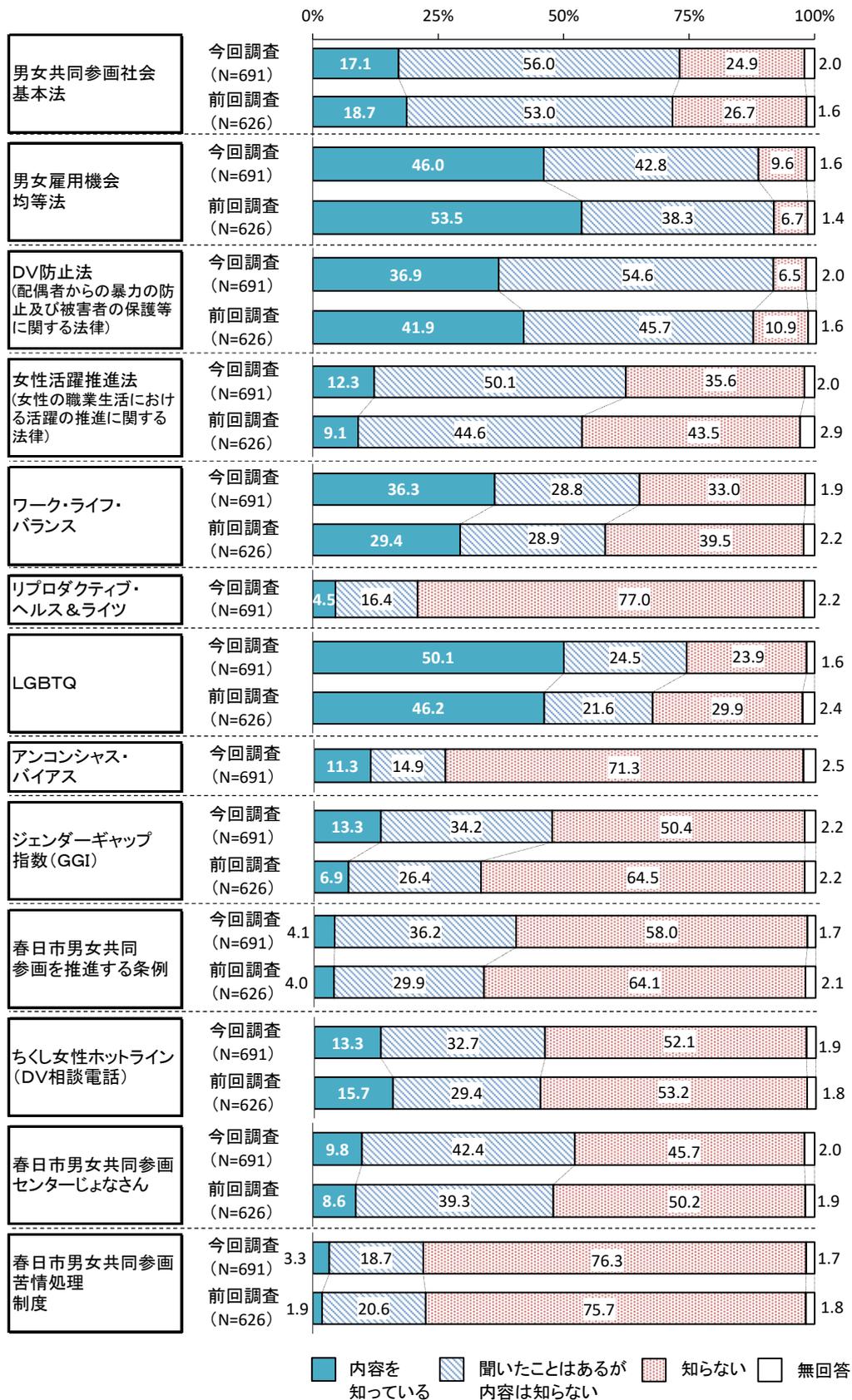


7 男女共同参画に関する施策について

●男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

問 あなたは、次にあげる法令や言葉について、どの程度知っていますか。(〇はそれぞれ1つだけ)

前回調査に比べ、「知らない」の割合が減っている項目が多く、全体的に男女共同参画に関わる法令や言葉の認知度は高まっています。一方で、春日市の施策である「春日市男女共同参画を推進する条例」「春日市男女共同参画苦情処理制度」「春日市男女共同参画センターじよなさん」「ちくし女性ホットライン」などは言葉の認知度は前回調査よりも高いものの伸び率は低く、条例の理念や市の施策については市民の理解をいっそう深めるために、市報やSNSなどの媒体を活用して周知を図る必要があります。



● 行政要望

問 春日市では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れるべきことは、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」や「保育や介護の施設・サービスを充実する」「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」「学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する」をあげる人が多くなっています。

男女が共に仕事にも家事や育児にも関わられるような環境整備がますます重要となり、両立支援を企業に働きかけつつ、男性の家庭参画や地域参画を促進するさらなる意識啓発が企業や家庭、地域、学校など広く求められています。

